

PRESS RELEASE



尚綱学院大学

Passion with Mission

熱い心、響かせる

リリース日: 2024年7月10日

尚綱学院大学 生涯学習講座「尚綱オープンユニバーシティ」

「布の手仕事とリユース文化」

報道関係者の皆様におかれましては、ますますご清栄のこととお慶び申し上げます。
平素より本学院の教育へご理解・ご協力いただき、誠にありがとうございます。

近年、SDGsに関するさまざまな取り組みが行われていますが、SDGs 17目標の中の12番目、「つくる責任、つかう責任」は、生産者も消費者も、地球の環境と人々の健康を守るよう、責任ある行動をとることを目標としています。この目標に関連した、「布の手仕事とリユース文化」講座では、小布や古布、古着を再利用している、日本と欧米の手工芸の魅力の紹介・解説を、下記の日程で3回にわたり行います。生活の中で育まれてきた技芸には、歴史的な背景や文化的な意味があります。先人の知恵や工夫を知ることによって、現代の生活の課題を発見し、楽しむヒントを見つけていきます。
ご多忙の折恐縮ですが、趣旨をご理解いただき、ぜひ取材くださいますようお願いいたします。

■「布の手仕事とリユース文化」

日時: 8/26(月)・9/2(月)・9/9(月) {全3回} 10:30~12:00

講師: 玉田 真紀(尚綱学院大学名誉教授 服飾文化学会会長)

会場: 尚綱学院大学地域連携交流プラザ(イオンモール名取あおばコート3階)

受講料: 3,900円(全3回分) ※事前申込が必要です。

※取材をご希望の場合は、イオンモール名取に事前連絡が必要となります。詳細は交流推進課までお問い合わせください。

<お問い合わせ先>

尚綱学院大学 教育研究支援課

大学広報室: 清野 正恵

電話: 022-381-3501

Mail: ksien@shokei.ac.jp

<本件担当者>

尚綱学院大学 交流推進課

担当: 高橋 幸子

電話: 022-381-3315

Mail: koryu@shokei.ac.jp

2024年度 尚絅学院大学 生涯学習講座
「尚絅オープンユニバーシティ」



布の手仕事と リユース文化

※申込締切8月19日(月)



日程

8/26(月)・9/2(月)・9/9(月)
10:30~12:00



受講料

3,900円
(全3回分)



講師 玉田真紀

(尚絅学院大学 名誉教授)

主な研究テーマは衣服・布のリユース・リサイクル。衣生活で取り組める工夫から、サステナブルな製品デザインの提案、回収から再利用までの社会システムの歴史の変遷、さらに現代の課題まで調査研究している。



場所

尚絅学院大学
地域連携交流プラザ

イオンモール名取あおばコート3階

↓ **お申込**はこちらから

尚絅学院大学 生涯学習



※会員でない方は、
会員登録が必要です。

【お問合せ】 尚絅学院大学 地域連携交流プラザ



022-381-1490

10:00~17:00 (水曜日定休)



kouza@shokei.ac.jp

1631A

布の手仕事とリユース文化

布の手仕事とリユース文化

関連する SDGs :



期 間：2024 年 8/26 (月) ~9/9 (月) [全 3 回]

期 所：尚綱学院大学地域連携交流プラザ

〒981-1294 名取市せきのした 5-3-1

(イオンモール名取あおばコート 3 階)

時 間：10:30~12:00

対 象 者：テーマに興味・関心があり学んでみたいと思っている方。

持 ち 物：筆記用具

修了要件：80%以上出席した方に修了証を発行予定です。

申込フォーム

スマートフォンからも
お申込みできます

定 員：20 名

最少催行人数：8 名

受 講 料：3,900 円

受講生へのメッセージ

★☆☆ (レベル1：初心者~初級者)

小布・古着を再利用する日本と欧米の手工芸の魅力を紹介します。生活で育まれた技芸には、歴史的な背景や文化的な意味があります。先人の知恵や工夫を知ること、現代の生活での課題発見や、楽しむヒントが見つけれたら嬉しいです。

日程	テーマ・内容	講 師
第 1 回 8/26	日本の伝統的な布リユースと古布・古着流通の歴史 伝統的生活が引き継がれた昭和初期までは布は貴重なものであり、古布を生かして衣服や生活用具を手作りして来ました。端縫(はぬい)、刺子(さしこ)、裂織(さきおり)など各地技芸の紹介と、それを支えた江戸時代からの商人による古着流通について解説します。	玉田 真紀 尚綱学院大学 名誉教授、 服飾文化学会会長
第 2 回 9/2	端縫着物と仏供米袋の魅力 小布を縫い合わせて作った着物や袋物は日本各地に見られます。例えば百徳着物は、長寿者の着物端裂(はぎれ)を縫い合わせ祈りを込めるなど、布や縫いには作り手の思いが込められて来ました。端縫の仏供米(ぶぐまい)袋も日本文化と結びつきがあり、大量消費社会の中で消滅しつつあります。日本文化を知る大切さをお伝えします。	
第 3 回 9/9	アメリカン・パッチワークキルトの文化 17 世紀新大陸に渡った人々と共に、西洋からキルトは持ち込まれ、19 世紀~20 世紀初頭にベットカバーとしてのキルトが作られました。小布を縫い合わせた文様には信仰・植物・動物・生活用具・友情の証などが綴られ、民衆芸術と言えます。 尚綱女学校創設期(19 世紀末)、初代校長ブゼル先生由来のキルトも現物をお見せします。	